

新唐津市民会館（仮称）改築設計業務プロポーザル審査講評

【最優秀者】

株式会社 久米設計 九州支社

（最優秀者選定にあたっての付帯意見）

提案内容は、ホールと展示場の計画、運営面などが最も高く評価された。審査会として下記の点を課題として指摘するので、見直し、検討をお願いしたい。

- ・付帯意見：①「大屋根の構成に関する見直しを要する」

大屋根は、俯瞰すると印象的であるが、周辺のスケールからすると過大に見える。屋根を分割するなど、市民が日常目にする道路からの視線にも配慮し、周囲の景観に溶け込むような工夫が必要と考える。

- ・付帯意見：②「安全性の観点から迂回路設置の検討を要する」

施設の入口が中央通路に向かって開き、人が中央通路を横切る形になり安全上の問題があることから、迂回路の設置が必要である。

【次点者】

株式会社 佐藤総合計画 九州オフィス

（次点者選定にあたっての付帯意見）

次点者を採用する場合、展示場の形状について曳山関係者と協議を行うこととし、また、迂回路の設置を検討する必要がある。提案内容は優れた内容が多く、その評価は最優秀者と僅差であった。

◆各提案に対する講評

(最優秀者：株式会社 久米設計 九州支社)

本提案の核である大屋根は、俯瞰すると印象的であるが、周辺のスケールからすると過大に見える。屋根を分割するなど、日常市民が見る道路からの景観にも配慮し、周囲の景観に溶け込むような工夫が必要と考える。また、通路周りのガラス張りの透過性も、熱負荷の低減を考える必要があり、構造の検討も十分にされたい。

ホールに関しては、安定した形で使い勝手がよさそうとの印象を受けた。施設を運営する際に直面する課題や稼働率を高めるための説明がなされている点は十分に評価できる。

(次点者：株式会社 佐藤総合計画 九州オフィス)

三層の勾配屋根を重ね壁面に格子窓を配し、街並みに配慮した無理のない外装となっている点が評価できる。展示場の形状を「L」字に構成した、お祭り期間重視の意欲的な提案であるが、展示場の構成については曳山関係者と協議を行う必要があると考えられる。施設がコンパクトにまとめられており、運用コスト、経費面で優れている点も評価できる。

(3位：A社)

市民利用、観光に関して意欲的な提案が盛り込まれ、メンテナンスや修繕に関する記述及び北側に補助的な迂回路を設置する提案が評価された。展示場の形状「コ」の字型は曳山を一望でき、映像の見せ方もわかりやすい。ホール形状、音響、利用想定等に関して委員の評価が分かれた部分があった。

(4位：B社)

唐津市の特性と歴史性を個別機能の名称に反映するなど、よく考えられた提案であった。北側に補助的な迂回路を設置し、また、ホール機能と展示機能を軒で繋ぎ、歩行者軸に配慮し構成している点が評価された。

さらに、神社側とのつながりを意識し、施設内部と外部の空間構成をうまく整

理している点も高評価であった。

(5位：C社)

南側ホールと展示場とのつながりの空間を十分にとった意欲的な提案であった。唐津城への眺望の取れるロビーと屋上庭園の提案は秀逸であったが、曳山の上部に人がいない工夫が必要であることが指摘された。また、地下に一度降りて、曳山展示場までの演出された導入部が印象的であったが、運用コスト等の懸念が指摘された。

◆全体の講評

審査を通して、全ての提案者が、基本計画を踏まえた完成度の高い提案であり、かなり力を入れていただいたという印象を受けた。各社が意欲と熱意を持って本プロポーザルに取り組まれたことが十分に感じられた。

基本計画の課題となっていたホール席数については、5案とも基本席数を超えた十分な席数の提案をしていただき、また、感染症対策についてもよく考え積極的に提案していただいた。市民会館は、使い手である市民の満足度が重要であるため、どの提案者も唐津市と協議し、再度検討することを確認できたことも大変良かった。

ホール部分については、形状が扇状の場合、演奏以外の目的で使用する時のデメリットが考えられることから、市民会館で採用するには、最優秀者の案が優れていると思われる。

今後は、代表企業として地元企業との設計共同体を結成され、唐津市と市民と共に、迅速かつ確実に設計業務を進められることを期待する。

結びに、本プロポーザルに参加いただいた企業の皆さまには、真摯に取り組んでいただいたことに対して心より敬意を表し、感謝を申し上げたい。

令和3年8月

新唐津市民会館（仮称）改築設計業務プロポーザル審査委員会

委員長 坂井 猛